

会議録

会議名	令和8年度 第1回 胎内市総合計画等審議会
日時	令和8年4月28日 18:00～
場所	胎内市役所 大会議室
出席者氏名	井上委員、齋藤委員、久保田委員、鈴木委員、渡辺委員、藤井委員、上山委員、坂上委員、久世委員
欠席者氏名	川上委員、味方委員、佐藤委員、安原委員、瀬賀委員、古俣委員、松浦委員
議題	(1) 第3次胎内市総合計画策定に係るアンケート調査の結果について (2) ワークショップの中間状況報告について
公開・非公開の別	公開
非公開理由	-
傍聴人の数	-
配付資料名	資料1 胎内市総合計画策定審議会委員名簿 資料2 胎内市のこれからのまちづくりに関するアンケート調査結果報告書 資料3 第3次胎内市総合計画 胎内市の未来を考える市民ワークショップ途中経過報告 参考資料 第3次胎内市総合計画等の策定について（諮問）
会議の内容	<p>1. 開会</p> <p>事務局：ただいまから、令和8年度第1回胎内市総合計画等審議会を開催します。司会進行役を務めます、総合政策課の井上です。よろしくお願いいたします。それでは、開会にあたりまして、総合政策課長よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>事務局：本日はお忙しい中、令和8年度第1回胎内市総合計画等審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、4月に学校教育課から総合政策課に異動してまいりました井上と申します。よろしくお願いいたします。日頃より、当市の行政運営にご協力いただいておりますことを、改めて御礼申し上げます。</p> <p>総合計画については、市の最上位計画となりまして、行政運営の基本的な指針となる計画でございます。昨年度から、第3次総合計画の策定に向けた議論を開始し、アンケート・ワークショップをはじめとする市民参加の取組を通じて頂戴したご意見等を踏まえ、第3次総合計画を策定したいと考えています。前回の審議会では、国の動向や、第3期総合戦略の策定方針案、アンケート調査等について、皆様からご意見、ご提案等をいただきました。今日の審議会では、先般実施したアンケートの結果と、これまで2回実施したワークショップの経過報告を中心に、ご審議いただきます。委員の皆様には、専門的な視点から、効果的な施策の展開につながるご意見、ご提案をお願いしまして、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>2. 審議会委員紹介</p> <p>※各委員及び事務局の紹介</p> <p>3. 議事録署名委員の選出について</p> <p>※事務局：推薦により議事録署名委員に井上委員を選任</p> <p>4. 議事</p> <p>(1) 第3次胎内市総合計画策定に係るアンケート調査の結果について</p> <p>※策定支援業者（ジャパン総研）より資料2「胎内市のこれからのまちづくりに関するアンケート調査結果報告書」に基づいて説明</p>

【質疑・意見交換】

藤井委員：74 ページの間 29「今後、市政に関する情報提供をどのような形で行うのが良いと思いますか」や、80 ページの間 33「今後、市民の意見や要望を市政に反映するためにどのような取組が必要だと思いますか」など、「その他」としてそれぞれに自由記述があります。89 ページには、アンケート全体に対する意見や要望などの自由記述がありますが、それに対して総合政策課としてコメントなどは行いますか。

鈴木会長：アンケート結果にコメントバックするかということですか。

藤井委員：それもありますが、様々な意見がある中で、例えばホームページなどに掲載するなどの考えはありますか。

事務局：アンケートは匿名ですので、いただいた意見に対してストレートにお返しすることはできませんが、今後分析等進めて、資料として市民の皆様にも公表したいと考えています。

鈴木会長：具体的には市報に公表するということになりますか。

事務局：この内容そのものを公表するかについては、内部でもこれから検討が必要だと思いますが、今ご審議いただいている総合計画にも反映させていくもの、またそれを待たずに早急に対応すべきものなど、市の内部で提案していき、対応できるものから対応していければと考えています。

鈴木会長：藤井委員は公表した方がいいという考えですか。

藤井委員：別途出さなくても政策などで示すことはできるとは思いますが、どのように取り扱うのだろうかと思って質問しました。

事務局：一般的には、市報の1～2ページを使って、概要をお示しするところが多いです。

久保田委員：無作為で1,200名を抽出したとのことですが、どの年代も同じ数を配布したのですか。

事務局：若い人は回答率が低い傾向にあるため、若い人ほど割合を多めに抽出しました。

鈴木会長：前回の会議で皆さんからの意見を聞いて、若い人の割合を多くしました。

久保田委員：支援事業者は、他の自治体でも実施されていたら、市民の市政への関心の目安として教えてほしいのですが、34.4%という回収率は比較的高い数字ですか。低い数字ですか。

事務局：胎内市の他のアンケートでも、おおむね3割程度なので、平均的な数字と見ています。

事務局（支援事業者）：基本的にこのようなアンケートを実施した場合、他自治体でもおおむね3割台で、4割を超えると高いと捉えられることが多いです。これが子育ての分野だけや高齢者の分野だけになると、回答率はもう少し上がるかと思います。

渡辺委員：アンケートの回答の比率は女性が多いとのことですが、各年齢構成で見るとどのような比率になりますか。それによって、回答の見方が違ってくると思います。

事務局（支援事業者）：97 ページに年齢別の表がありますが、20代から70歳以上まで、60代を除いて各世代で女性の比率が高く、60代は男女で半々、16～19歳は男性が高くなっています。

渡辺委員：おおむね自分のイメージと違和感がないのですが、80 ページの間 33「今後、市民の意見や要望を市政に反映するためにどのような取組が必要だと思いますか」で、「市政に関する情報の積極的な公開」が50.1%と最も多くなっているのは、情報公開が積極的に行われていないということでしょうか。これはどのような趣旨の回答なのだろうかと思います。私は、それなりに情報公開はされていると思っていますが、回答が非常に多いので疑問に思いました。

鈴木会長：何か分析していることはありますか。

事務局（支援事業者）：あくまで推測ですが、市が情報を公開していないわけではなく、それをキャ

ツチする機会が少ないことから、回答いただいた割合が高くなったのではないかと考えられます。

鈴木会長：問 33 は「市民の意見や要望を市政に反映するために」ということなので、なかなか読み取りが難しい設問だったのではと思います。

事務局（支援事業者）：自由回答でも、「そもそも判断するほどの材料がない」といったご意見も、数は多くないですが上がっていたので、「意見や要望を反映するための材料がほしい」と思う方が多かったのかもしれないと思います。

鈴木会長：アンケートをもっと実施してほしいという要望が次に多いのが、意外でした。アンケートを実施していることを認識していない方が多く、それが共有できていないという課題があるのかもしれない。

齋藤委員：SWOT分析で「強み」「弱み」「機会」「脅威」を整理するとして、今回のようにnが「どちらとも言えない」に集中しているパターンについて、事業者はどのような見解をお持ちですか。

事務局（支援事業者）：まず、「どちらとも言えない」という回答を除き、例えば「満足している」と答えた方は「3点」、「まあ満足している」と答えた方は「1点」、「あまり満足していない」と答えた方は「-1点」、「満足していない」と答えた方は「-3点」のような形で、29の項目ごとに満足度の点数を出します。それに87ページの間37で29の項目について「特に大切だと思う施策」を聞いていますので、これも順位を付けて、特に満足度が低く重要度が高い項目は何かをピックアップするなどの分析を行うことになるかと思えます。

鈴木会長：できれば年代別もあるといいかと思えます。

久世委員：地区によって年齢構成はかなり変わると思えますので、地区ごとの年代別のデータも把握することはできますか。

事務局（支援事業者）：それぞれのデータを出すことはできますが、地区と年代でわけてしまうと、例えば中条地区の何歳の方というのが、サンプルによっては1人とか2人になってしまう可能性もあるので、分析に値しない結果になることはあるかもしれません。

鈴木会長：地区ごとのサンプル数がないと、クロス集計は厳しいかもしれないです。30代～40代で傾向が違うところがあるということです。

坂上委員：アンケートの自由記述で共感できることがあります。例えば、コストコや大型商業施設を誘致してほしいなど、今までのこのようなアンケートの自由記述の内容が、どれくらい計画で実現したのか知りたいです。

事務局：難しい質問です。まずは、「これをやってください」「はい、そうします」というためのアンケートではないということが大前提ですが、市としてニーズを知ってできる限りのことはやれるよう活用させていただきたいと考えています。過去に取ったアンケートがどのくらい実現したのかについては、それぞれのアンケート調査を追いかけていないので、申し訳ありませんが回答できるものは手元にありません。

事務局：坂上委員がおっしゃったように、具体的な提案になると難しい部分があると思います。実際、今までに工業団地が造成されたとか、施設が来た、民間会社さんが来たというのは、中条町でも黒川村でもあったと思いますが、それがアンケートから結び付いた結果なのかどうかは、わからないところです。

鈴木会長：計画がどれくらい実現したかは、アンケートの結果やワークショップ、この審議会の委員からの意見で総合計画ができあがり、総合計画の中で数値目標を定め、それに対して政策評価でできたかどうかを審議してわかってくるものだと思います。突拍子もない意見に対してどのように受け止めるかは、今後の議論になるかと思えます。

齋藤委員：都市計画の策定イメージですが、例えばアンケートの意見で、中心市街地の活性化に財源を投入するという意見と、郊外の方に大規模な商業施設を持ってくるという意見があったとして、これらは相反するものなので、財源が限られている中でどちらかしかでき

ないとなった時に、ある程度市としてどちらが適正かを決めた上で実現性評価をしていくのか、一つひとつの意見に対して実現性評価を行い、実現できるものを組んでいくのか、どのような決め方をイメージしておられますか。

事務局：その辺の方向性についても、次回以降にお答えできればと思います。

鈴木会長：できるかできないかは市役所内部で調整が入りますので、その中で取捨選択していくことになるかと思います。

上山委員：このアンケート結果は、総合政策課が使うことはあると思いますが、他の課が利用することもありますか。

事務局：この審議会と並行して、庁内でも検討委員会を進めていきますので、その中でもこのアンケートは活用していきます。

齋藤委員：例えば、地域整備課でのインフラ整備などで、1つの材料に使うことはあると思います。

事務局：そのような活用の余地はあると思います。

上山委員：アンケート結果で興味深かったのは、87ページの特に力を入れてほしい施策で、アンケートの回答者は高齢の方が多かったのに、「高齢福祉」が一番高いのではなく、子育て支援など「子育て」系の声が多かったことです。それから、現役の子育て世代は20～40代がメインだと思いますが、子育て支援の満足度を見ると、高齢の方は「どちらとも言えない」「まあ満足している」が多いのに対して、20～30代では「どちらとも言えない」の次が「あまり満足していない」となっているので、全体的な「まあ満足している」よりも、ピンポイントで現役世代の「満足していない」に注目した方がいいと感じました。

鈴木会長：88ページを見ると、高齢の方はやはり「高齢福祉」を選択している方が多いです。30～40代の方が「子育て支援」を選択している方が多いので、数字を引き上げているのだと思います。

事務局：施策のターゲットというのは、各事業のさらにその下の一つひとつの事業に対して考えていく上でも、大事なところだと思いますので、ありがたいご指摘として受け止めたと思っています。

井上委員：アンケート調査は、市長が何を考えているのかや、市長がどのような取組をしたかなど、抽象的ではなく具体的・直接的な内容にすると、回答率もより高まり、様々な議論ができるのではないかと思います。

鈴木会長：農業だと担い手などが考えられます。

井上委員：最近の新聞やニュースを見ると、ひと世帯の子どもの人数が1人から2人くらいとのことで、人口は減っていくと思います。より踏み込んで、子どもが生まれやすい体制を重点的に考えていかなければ、胎内市は他の町より人口が少なくなっていくような気がして、心配しています。

久保田委員：今、おっしゃった人口減少というのは共通の問題だと思いますが、その中に会長がおっしゃったような農業の後継者が出てこないということがあるかもしれませんし、もしかすると後継者はいるのかもしれません。今後はこの数字の後ろにあるものを読み取ったり、推測したり、考えていかなければと思います。また、胎内市の特徴のようなものを、できれば全国や県、あるいは隣の新発田市や村上市などと比べて、どのような市になっていきたいと考えているのかという視点も加えられれば、厚みのあるものになっていくと思います。

鈴木会長：久保田委員のおっしゃるとおりで、スーパー誘致、コンビニ誘致、郊外の大きなショッピングモールの誘致ということになると、中心部の商業の話が拾えないと思います。

事務局：個人的な意見ですが、アンケートがすべてではなく、他にも公式な統計や情報、ご意見も踏まえてつくっていく必要があると思います。

鈴木会長：よろしくお願いいたします。それでは、次の議題に入ります。

(2) ワークショップの中間状況報告について

※策定支援業者（ジャパン総研）より資料3「第3次胎内市総合計画 胎内市の未来を考える市民ワークショップ途中経過報告」に基づいて説明

【質疑・意見交換】

渡辺委員：私もワークショップに参加していましたが、参加されているメンバーは胎内市の今の市政に大変興味がある方ばかりですし、小グループで話をするワールドカフェという手法は、我々が学校運営協議会でも使いますが、具体的にやりたいことなど出てきますので、とてもおもしろかったです。ただ、今やらなければいけない問題があまりにも多いので、次のワークショップも間髪を入れずに行って、早く具体的に実践していきたいと思いました。

事務局：ありがとうございます。5月8日に3回目のワークショップがありますので、皆様もご都合が合えば、ご参加いただきたいと思います。4回目も委員からご指摘がありましたように、間が空くと途切れ途切れになりますので、間髪を入れずに6月の早い段階で、日程を組んでいければと考えています。

井上委員：6月の予定はまだ決まっていないですか。5月8日の時点では決まっていますか。

事務局：6月の予定は、上旬から中旬で行いたいと考えています。

齋藤委員：3回目のワークショップからは項目ごとに深掘りしていくということですが、基本計画の項目の中でも意見が集中するところとそうではないところがあると思いますので、そうではないところを深掘りしていく際には、コンサルタントや事業者が切り口などを参加されている方に示すと、活性化すると思います。

久保田委員：私も2回目に参加しましたが、やはり胎内市が好きな人や興味のある人、関心がある人が多数参加されていたので、アンケートにもあったような胎内市のいいところの意見が出ていました。そのいいところについて裏付けができるよう、例えばイベントであれば参加人数が増えているデータなどを示したり、全国的にもめずらしいことを紹介したりするなど、意見を聞くだけではなく情報を伝えることで、さらに分析や意見が深まると思います。事務局なりの議論の盛り上げ方をしてもらいたいと思います。事業者は全国的な事例もご存知だと思いますので、そのようなものもご紹介いただければと思います。

鈴木会長：場合によっては参考事例なども示していただければと思います。

坂上委員：私も参加しましたが、若い世代から年配の方まで参加され、胎内市のいいところを再認識できたことが一番大きかったと思います。同じグループに高校生がいたので、この先胎内市に残りたいかを単刀直入に聞いてみたところ、「出たいです。」とはっきり言われました。一度外に出て、経験を積んで戻ってくる可能性はあるとしても、まずは出たいのだなと思いました。若い方が外に出て、いずれいろいろな経験を積んで胎内市に戻ってきたいと思えるようなまちづくりができればと思いました。

渡辺委員：私も参加しましたが、ゲーム感覚で楽しかったです。くじで決まったグループごとに、10年後の胎内市をイメージする写真を選び、その写真に基づいて10年後のビジョンを示すようなストーリーをつくりなさいというものでした。最初はどうかと思ったのですが、皆で話していると共通の話題があるので、自然と形になっていきました。

鈴木会長：5つのグループに同じ写真を渡したのですか。

事務局（支援事業者）：いいえ。かなり多くの胎内市の写真を、ランダムに置いておいて、そこから各グループ自由に選んでいただきました。

藤井委員：写真自体が問題提起になっていたと思います。

事務局：胎内市の特徴として考えられるようなものを選ばせていただきました。

鈴木会長：かなり本音が出てきたと思います。皆さんの関心が高かった、子育て世代への支援が必要ということに対して、何かしらの解決策にチャレンジしていかないと、胎内市は将来への危機感を誰もが感じると思います。中学生や高校生だけでワークショップを行うこともあって、そこに多くの答えがあるのですが、それを実行するののかしないのかが課題になってくると思います。

久世委員：1回目、2回目は全体的な部分の内容だったと思いますが、3回目、4回目は個別具体的な部分にフォーカスして話を進めていくと思います。その際、このアンケート結果は共有されるのですか。

事務局（支援事業者）：その予定です。特定の分野だと、意見を出しやすいもの出しにくいものがあると思いますので、ある程度こちらから呼び水になるようなデータや統計などのトピックは示さないと、議論がしづらいかと思います。このままではなく、わかりやすく加工してお渡しできればと考えています。

久世委員：私もそうですが、普段はあまり意識していない分野があると思いますので、興味を持っていなかった分野にも、意識が向けられるといいなと思います。

上山委員：このワークショップはどこで募集をかけていたのでしょうか。私が参加した時に、自分から申し込みをしましたという女子大生と、先生に言われたから来ましたという高校生がいて、我々はこの審議会で声がかかったので参加したと思いますが、自ら申し込んだ人が何人で、言われて来た人が何人いるのか、もし聞くことができれば次回聞いてほしいです。

事務局：募集は、市報に掲載し行いました。あとは、学校を通じて声をかけていただきました。公募で来られた方もたくさんいます。参加者数は、両方とも20名前後くらいです。1回目、2回目とも、メンバーはほぼ一緒でした。

鈴木会長：3回目は私も参加します。もう少し参加者がいてもいいかなとは思いますが、それでは、次第5のその他に入ります。

5. その他

事務局：本日出席いただいた委員の皆様の口座に、委員報酬をお支払いいたします。5月下旬を予定しています。本日の議事録については、整い次第、井上委員に署名をいただき、ホームページで公表する予定です。最後に、次回の審議会のスケジュールは5月下旬を予定していますので、早急に日程調整を行いたいと思います。ご協力をお願いします。

鈴木会長：それでは、今年度第1回胎内市総合計画等審議会を閉会したいと思います。

事務局：皆様長い時間のご審議、そして大変貴重なご意見をどうもありがとうございました。これをもちまして、令和8年度第1回総合計画等審議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

6. 閉会

議事録署名人

井上善美男